今月の読み物

愛しき地中の遺物達

第７班
決まってるね！チー坊

まだ残暑が残る７班材友会席上、突然月報委員長のＦ氏より「次の各班持ち回り記事はチー坊で！」との御指名が！と同時に出席者全員の無責任な拍手。当然のこと完全無視で過ごしていたら「原稿出来ました？」と、事あるごとにＦ氏の催促が。そして７班独自の理事会通信で「記事担当はチー坊」と明記され、更に組合事務局から原稿締切のメールが来てジ･エンド！　ただ、「全て文章でなくても写真でもイラストでもOKですよ。」とのアドバイスで、良いアイデアが浮かんだ。

という事で、学生時代からたまに拾い集めた地中から出てきた過去の遺物（ガラクタ）達に登場してもらいましょう。学問的には全く無価値な物でも私には愛しき彼らを紹介して、ご勘弁願いたいと思います。（全て地表に出た物を拾っており、掘ったりはしていません）

《燈明皿》30年位前、茅場町の現場に矢板を納入した際、掘り起こされた土山から見つけた物です。素焼きに雑な釉薬。内側の円縁に灯芯を乗せる切り込みが有るのが分かります。形は完全な円ではなく脇から見ると少し歪んでいます。菜種油をさし繊維質の芯材を乗せて使う、江戸時代の庶民の雑器です。

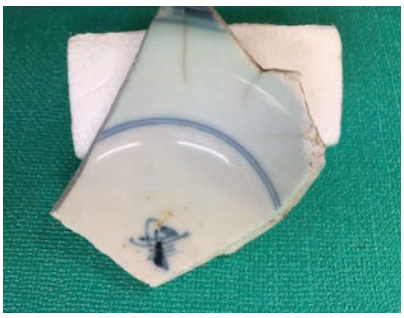
《生活雑器》これもまた25年位前、御徒町や白山の現場で拾った庶民の生活雑器の欠片で、近代（明治～大正あたり）でしょうか？漢詩が描かれていたり、「寿」の文字があったり、中には「大日本卒（翠？）山製」と製造元も。当時どの様な場面で使われていたのか想像するのが楽しみなんですよね！

《泥面子》４～５年前、立花の現場で拾った江戸期の庶民の玩具です。1/3程欠けていますが、元は３㎝程の円形。厚さは12～13㎜。表面に蛇の様な渦巻状の巴紋が見えます。面子の呼び名ではありますが、昭和の紙面子の様に叩きつけて遊ぶ物ではなく、地面上の目標に投げたり、大人達は地面の穴に投入れ賭け事に使ったりした様です。模様の種類はいくらでも有り、子供達はそれぞれ交換しながら持ち駒を増やして喜んでいた事でしょう。但し、立花一帯は当時人家は少なく田畑が広がっていたはずです。想像では江戸庶民の肥

茅場町の燈明皿

少し歪んでいます

近代？の茶碗の欠片



「寿」の文字

に紛れた泥面子が畑に撒かれた時の物でしょうか？

《縄文土器》子供達が小学生の頃、白山にある小石川植物園に出かけた折、高台の売店あたりで拾った物です。小石川植物園は白山通りと千川通りに挟まれた小石川台地の先端に位置し、崖下には河川や海が迫って縄文時代には陽当り良好な集落が有った事でしょう。この２片には縄文は有りませんが、細い竹や笹を割った道具で左は土器の口縁部を爪痕状に、右は胴体部分を筋状に刻印しています。

《石皿と磨石》学生時代北上市の畑地を散策中、畑の隅で拾った縄文時代の石器です。狩猟漁猟採集を基本とした当時の、栗･栃の実･ドングリなどの堅果類を石皿にのせ磨石（すりいし）ですって粉状にする道具です。各地の低湿地遺跡で堅果類のあく抜き施設が見つかっており、また縄文クッキーと呼ばれる焼かれたパン状の遺物もあり、これで毎日の主食？を作っていたのでしょう。縄文クッキーは住居内の炉灰の中から見つかる事が多いので、長野の「おやき」みたいですね。ちなみに、畑では耕作時に地中から出た障害物を畑地の隅に積み集めて置くことが多いので、狙い場所です。（勿論農家の人には一声掛けて下さいね）

《石錘》これも石皿と同じ所から拾った物。この畑地の下には、北上川の支流の和賀川が流れており、当然これら全ての丸い川原石は人の手で持ってこられた物です。良く見ると石の短軸方向にそれぞれ欠込みがあります。中には筋状に摺り跡も見えます。明らかに、漁撈網の重しとして使用した縄文時代の石錘（せきすい）で、筋条痕は網跡でしょう。当時遡上してきたサケ・マスなどを網で捕獲し、美味しく頂いたに違いありません。もしかしたら、魚油なども作っていたかも！

《布目瓦》学生時代奈良を旅行した折、興福寺・奈良公園内で拾った古代瓦です。当時興福寺前にまだ有った、文人・学者・学生が愛した『日吉館』で一泊。翌朝奈良公園を散策中、植込みや排水路に何気に顔を出している瓦片を発見！裏を返して見ると、何と布目の跡が！布目瓦は奈良時代から平安時代に使用された古代瓦で、製作上木枠から剝がし易くする為、木枠と粘土瓦の間に麻布を敷き、外側からは縄を巻いた「叩き板」でた

江戸時代の泥面子

小石川植物園の縄文土器

石皿と磨石（すりいし）

石皿

石錘の欠込み

石錘の欠込み

石錘の欠込みと筋条痕（網跡）

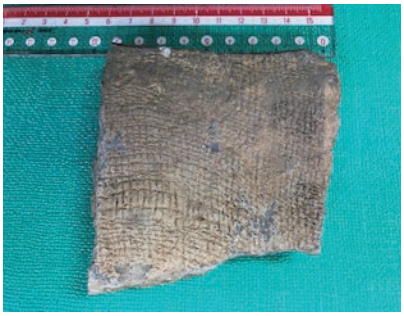
左側；赤味の瓦、右側；黒味の瓦

赤味瓦の縄跡（表）

同　布目（裏）

たいて整形したので、内側には布目が外側には縄目痕が残っています。焼きは赤っぽく厚手で目粗な物と黒く引き締まった２種類を採集しました。時代の違いか伽藍の重要性の違いかは不明です。学問的には軒先瓦（丸瓦と平瓦があり、紋様がある）が重視され、発掘すればいくらでも出てくる平瓦片は見向きもされないのでしょうか。

黒味瓦の縄跡（表）



同　布目（裏）

ちなみに、日吉館での夕飯は名物のすき焼きで、本館ではなく裏庭の平屋で他人との雑魚寝であった事が青春の一コマとして懐かしく思われます。

《木の葉化石》これはおまけ。20年位前家族旅行で訪れた塩原温泉の『木の葉化石園』で、お土産に買った「化石の原石」を帰ってから割ってみた物です。そんなに古い化石ではなく、数十万年前「古塩原湖」底に火山灰等が堆積し木の葉や昆虫類を取り込んだ物です。割ってみたところ葉の葉脈まではっきり！もう一つからは昆虫の羽根が出てきました。羽根が２㎝強もある蜂かアブ（ハエ）？良くわかりませんが、そのあたりでしょうか。

木の葉化石

昆虫の羽化石

ご紹介はこれでお終いです。最後になりましたが、実家の片隅に忘れ去られていた彼ら（ガラクタ）に日の目をみる機会を与えて頂き、彼らに代わって感謝申し上げます。謝謝 !!

P.S. この原稿を修正中、次のようなニュースが飛び込んで来ました（12/8）ので、ご紹介いたします。

慶應義塾高校の理科の授業中、『木の葉化石園』より教材として提供された「化石の原石」から、高校生がほぼ完全に保存された全長25㎜の30万年前の新種のセンチコガネの化石を掘り当てた。との事です。実家には確か手を付けてない原石が１～２個あったはず !!　これは期待出来るかも？